

# 自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2003.8.10 No.5

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## イネ科、カヤツリグサ科、イグサ科

真夏の公園内は春の時期とは違い、カラフルな野草が咲きそろっていません。そこで、あまり注目を浴びず見捨てられるがちなイネ科やカヤツリグサ科、イグサ科に目をむけてみましょう。とはいっても、これらはもっとも見分けの難しい植物群ばかりふくまれています。種類も多くイネ科とカヤツリグサ科だけでも日本には600種以上もあるといわれています。

そこで、これらの科の特徴をしっかり理解し、その上で図鑑等で種の同定をおこなうと興味や親しみがわいてくることでしょう。

茎の切り口は円形、原則として中空で、明らかな節がある。葉はいっぽんに左右2列にならび、下方はさや(葉しよう)となって茎をとりまく。植物体のどこかに毛があるのがふつうで、全く無毛の種類は少ない。葉身と葉しようの境に葉舌がある

イネ科



茎の切り口は三角形、ときに四~多角形、もし円形なら、中空でないのがふつう。茎の節は、はっきりしないものが多く、葉があれば、ふつう3列にならぶ。植物体にものある植物はごく少ない。葉舌(下図参照)はめったにない

カヤツリグサ科  
イグサ科



イネ科の葉身の基部はせまくなっています。細い筒型の葉しよう(鞘)につづき葉しようが茎をつつんでいます。葉身と葉しようの境のところを鞘口(しょうこう)と呼び内側に歯舌(ようぜつ)というべらべらした膜がついています。

カヤツリグサ科は各部分が3という数を基本にしてなりたつ性質が強いといえます。例えば茎の切り口は三角形のものが多く、葉は上からミルと3列に並んで(イネ科では左右2列)つき、おしへは3または6本が多く見られます。

人間の主食のほとんどはイネ科ですが、カヤツリグサ科には有用植物がないのが不思議です。

**イグサ科**  
茎は円柱形または2棱形で、中空(中空でない)。葉は2列互生(1/2葉序)。葉鞘は円筒状で縫合は離生するか、合着して完全な円筒形になる。葉舌はなく、葉耳のあるものがある。花は小型であるが小穂をつくらない。花被片は6個、2輪に並び、頭状で果実まで残る。子房は3心皮、1-3室、3-多数胚珠。果実は蒴果で、絶背裂開し、種子は3回または多數。

### 類似の科との簡単な区別

#### イネ科

茎は多くは円柱形で中空、葉はふつう2列互生につき(1/2葉序)、葉鞘は筒形であるが縫合は離生(まれに合着)、葉舌がある。花序の分枝にふつう前葉はない。小花は外側に腹面、内側に内面がある。花被片は2-3個、鱗片に退化する。子房は1または3心皮、1室で1胚珠。果実は蒴果(宿存と果皮が合着して帽子のように見える)。

#### カヤツリグサ科

茎は多くは3棱形で、中空(中空でない)。葉は多くは3列に並び(1/3葉序)、葉鞘は完全な筒形となり、葉舌がない。花序の分枝の基部に、ふつう膜質の前葉がある。小穂中の小花は外側に鱗片(苞)があるだけで、内側には鱗片はない(例外としてスゲ類では鱗片の内側にもう1枚の鱗片様の果胞がある)。花被片は多くは2列または別針に退化する。子房は3-2心皮、1室で1胚珠。果実はそう果。

参照・引用

日本の野生植物 I (平凡社)

野草図鑑③ (保育社)

## アワフキムシ - 幼虫の巣 -

野草や低木の茎や葉にせっけんの泡か唾液のようなものがついているのを見た方は多いでしょう。これはこの泡の中に潜むアワフキムシの幼虫が作ったものです。アワフキムシはセミに近縁な半翅目、アワフキムシ科に属する昆虫のことです。日本で知られている数は40数種と言われています。

この幼虫の泡を唾液に見立てる感覚は西洋でも同じで、英語でもアワフキムシを spittlebug とか spittle insect (ツバキムシ) と呼び、幼虫の作る泡を cuckoo spit (カッコウのつばき) と呼んでいます。

この泡はどのようにして作られるのでしょうか。幼虫は植物の葉や茎から養液を吸って生活していますが、尾端から出される排出物の液を腹部の気門へ流し、呼吸作用で気門から出される空気を腹部を伸縮させながら排泄物と混ぜて作ります。できたこの泡は粘りがあって割れにくく、雨にも流れず乾燥にも強という不思議な泡です。泡の中には原生動物がたくさん住んでいることが知られていますが、アワフキムシの幼虫とどんな関係を持っているのかわかっていません。

泡は幼虫の身を守る隠れ家といえます。たいていの捕食昆虫は泡の中には入ってきません。アリを入れたら死んでしまったという報告もあるそうです。ですから泡の中にいる幼虫はおおむね安全な暮らししが保障されていて、アワフキムシ類の幼虫の生存率は比較的高いことが知られています。

成虫になると泡を作る能力は失われますし、その姿は小さなセミのような姿です。驚くとジャンプして逃げます。



## エゾニワトコの果実

6月の初夏、枝先に白色の小花を集めて泡立つように咲いていたエゾニワトコが青々とした葉の陰にもう赤い果実をつけています。この実をカラスがよく食べることから「カラスの実」とか「カラスのまんま」の名がつけられています。一見うまそうですが、味はまずいといわれています。黄色の実もありこれをキミノエゾニワトコといいます。和名では「接骨木」と書き、幹や枝を乾燥させたものをいい骨折や捻挫に効用があるともいわれています。

### 9月の観察会は？

秋の気配が漂ってきました。さわやかな秋風を体に受け、樹木や野草の果実を観察します。キノコも顔をだしていることでしょう。夏鳥たちも南へ渡る時期です。木々の合間から野鳥の観察もしてみましょう。

・9月の森の観察会 9月18日（木） 10:00~12:00 開拓記念館前に集合です。